

令和3年度通常総会

開催日：令和3年10月21日

場 所：高知県立青少年の家 大集会室

○中嶋会長

どうもこんにちは。来ていただいた方、どうもご苦労さまです。

最近、土砂災害について、まとめているので少しお話しさせていただきます。

土砂災害の原因は豪雨プラス土地要因、それに加えて開発や森林伐採、これが加わって、三つどもえで大体起きています。

土地要因にどんなものがあるかという、まず、真砂土という花崗岩の風化したものがあります。他には、火山灰土、軽石、破碎帯や流れ盤等も土地要因になります。

森林伐採については、皆伐すると、すごい災害が起きています。例えば、昭和22年に赤城山が大崩壊しました。これは戦中戦後の、強制伐採ではげ山になり、580ミリの雨が降ったら大崩壊を起こして、何と2,000町歩崩れたそうです。

私が台風19号や去年の7月豪雨の土砂災害の被災地を調査すると、崩壊が起こって、災害がひどかったところが、皆伐地と重なりました。皆伐地では広葉樹、人工林の両方で崩壊が起こっていました。それから、皆伐後も再生林にしていれば土砂災害は大丈夫だとよく言いますが、関係ありませんでした。放置していようが、再生林していようが、関係なく崩れていました。実は、調査地では再生林率が結構高かったんです。ほとんど植えているんだけど、すごい災害になっていました。皆伐後の再生林地は、植えてから20年まで危ない。植えてから20年以上たっているところは、ほとんど災害がゼロ。どうもそのあたりに土を押える分岐点があるなという感じでした。また、一般的に放置林や未整備林がよく崩れると言われていました。けれども、圧倒的に皆伐のほうが、崩れる危険度は上がっていました。また、林道や作業道が起因となっている災害も多く見受けられました。

だから、今回の調査では、土砂災害には人為的な要因が大きく関わっているという結果がでました。逆手を取ると、20年以上、成木が維持されていたり、使い続けられる、壊れない作業道が敷設されていたら、土砂災害は起こらないのではないかと。この2つを担保する林業が自伐です。多間伐施業で壊れない道を入れて、間伐を繰り返す。間伐を繰り返すから、木はあり続けます。ということで、土砂災害防止に直結するんだと。

どうやったら土砂災害を防げるか。自伐の道はどうつけるか。まず地形や土質、流れ盤を見極めながら、湧水破碎帯は極力避ける、ヘアピンは尾根、谷は洗い越し、それから敷設する箇所は、急傾斜地はちょっと緩くなったところを狙ってつける、たまり土や、急傾斜地では壊れないための木組み等をする等、オーソドックスなルールを守ることが重要です。

なるべく高密度路網にしていくと、実はこれが崩壊を止め、水源かん養にもなります。何故かといったら、山を階段にすることは、山腹工事と同じ役目をするからです。土の動きを止めて、緑化させることができます。

皆さんには、壊れない道をいかに入れて、土砂災害を防ぐかを考えていただきたいと思います。それから壊れない道を入れることが、経済的に自立していくことへの転換にもなりますので、そこを目指していただきたいと思います。